

山口県
地域連携
教育通信

セポ C.E.P.O. ニュース

Community Education Promotion Office

子どもの育ちや学びを支える イコール・パートナーとしての関係づくり

子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。とはいえ、世の中はいまだ予断を許さない状況にあります。かつてない困難な日々を過ごしている子どもたちの安心安全のため、学校教職員、保護者、地域の方々が力を合わせ、知恵を出し合いながら「協働」していくことが今後一層重要になります。今回は、学校・家庭・地域の「協働」を実現するための関係づくりについて考えてみたいと思います。

「学校は地域から支援してもらおう側」、「地域は学校を支援してあげる側」のように、学校と地域の関係の固定化がみられることがありますが、これは一方向的な「貸し借りの関係」です。また、「学校は家庭にサービスを提供する側」、「家庭は学校からサービスを受ける側」という関係の固定化によって「お客様意識」が生まれてしまうと、地域連携に主体的に関わろうとする姿勢に向かいにくくなります。

学校・家庭・地域の「協働」を実現するためには、それぞれの立場同士が互いに双方向の関わり合いを意識すること、「自分だったらこうしたい」という具体的な参画意識をもって主体的に地域連携に関わろうとすることが大切です。そのためにも、学校運営協議会を充実させることで、めざす子どもたちの姿や地域課題をしっかりと共有し、自分の立場から何ができるかを考えていきましょう。

学校と家庭と地域が「イコール・パートナー」としての関係を築き、地域みんなで子どもたちの育ちや学びを見守っていくという意識をもつことから始めましょう。



子どもの育ちや学びを共に支えるイコール・パートナー = 対等な関係を築く